　園 長 だ よ り

　曇り空、雨模様が続きます。気持ちだけは毎日、晴れていたいものです。

　ここまでの便りは３通、振り返ってみると以下のような内容にふれました。

**・**保育園の音楽教育

**・**音楽教育で近年、大切に考え実践している

　 もの（わらべうた）

**・**音楽教育の指導カリキュラムの再編

**・**音楽教育の源になる考え方（園長の思考）

1. 音楽が好きになること
2. 発達に応じたプロセスを踏んでいく
3. 生活の中で音楽が無理なく心地よく感じられること
4. 心地よさの中か心の育ちをはぐくむこと

　今回も前号に続き、**わらべうたについて**思うことを綴ります。

　以前、６月の園だよりにて「人と人とをやわらかく繋いでくれるわらべうた」と題し掲載がありました。　以下こんな文面です。

　おおぞら保育園ではわらべうた遊びを通して人とのつながりに焦点をあて、乳幼児期から順番、

交代など秩序や社会性なども感じて欲しいと考えています。子ども同士のコミニュケーションは基より子どもと保育士との関係のツールとして大活躍しています。

　中　略

　わらべうたは今も子どもの心に響きあい、言葉

の心地よいリズム（鼓動）と温かさで子ども達を楽しませ、また勇気づけてくれています。

　一対一で子どもに向き合うことで優しい気持ちになり、表情が穏やかになることで、子ども達と向

き合う姿勢が変わります。そして、そのことによって育まれた関係性で不安感がなくなり目が輝いてきます。

　わらべうたは人とのふれあい、人との信頼感を深めていく大きな力になると実際、子ども達の様子をみて思います。

　掲載から、人として生きていくための人間性の育みに大きな力となるものと考えていることが読み取れます。

　以下、保育園ホームページブログより引用

**わらべうた　課業　（4歳　5歳児）**

　わらべうたの課業について　わらべうたをすることの大きな目的は子ども達が音楽を好きになることにあります。最も柔軟と言われる幼児期に音楽的な能力の発達を大人の働きかけによって音楽を楽しむことができるようにすることです。

　わらべうたの課業はいつもの遊びを目的としたわらべうたの時間を音楽的な目的をもち、わらべうたをすることです。おおぞら保育園ではわらべうたの実践を経て年度半ばですが音楽的ねらい（目的）をもった課業を４，５歳児が取り組み始めました。　　取り組みの中では

**リズムを感じる力（リズム感）**

1. 拍　②　リズム　③　速い、遅い

**音楽を聴く力　（聴　感）**

1. 清潔にうたう
2. 高い　低い
3. 大きい、小さい
4. 内的聴感
5. 音　色

上記が課業の要素となり計画を立案し

子ども達とわらべうたを実践しています。

※清潔にうたう、内的聴感については聞きなれない言葉ですね　次号でふれていきます。

わらべうたは単に遊びのツールではなく、音楽的な視点からみても子ども達が体験し獲得していくものが幾つも具備されています。

保育園の音楽教育については、指導カリキュラムを見直し再編している時期にあると前号でお伝えしました。わらべうたを音楽教育の中心にすえながら指導内容を考え実践していきます。

**小学校の音楽教育について**

小学校学習指導要領解説（音楽編）には、

1年生、2年生の目標の一つに「楽しく音楽にかかわり、音楽に対する興味、関心を持ち、音楽経験を活かし生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる　」とあり、音楽に対しての興味、関心を持つようにし、音楽経験を生活に活かす態度と習慣を育てることを示しています。

仮に小学校との接続を考えたときに乳幼児期に適切な教育を施される必要性があります。

わらべうたの活動に置き換えてみると楽しく

音楽にかかわること、人（友達）とのコミニュケーション能力の獲得、リズムを感じる力の獲得

など接続につながる要素は具備されていることになります。

　市内小学校の音楽授業では教育芸術社の教科書を使用しています。出版社の作成した学習指導計画では、１年生の入学後、はじめての授業で「うたでなかよしになろう」と題材を設定し「歌ったり、体を動かしたりする楽しさを感じとりながら音楽への興味、関心をもつ」とねらいを示しています。

また５月～７月には「拍をかんじて遊ぼう」、

「拍をかんじてリズムをうとう」と題材を設定

し「リズムの違いに気づき、拍の流れを感じ取って

簡単なリズムを演奏する」とねらいを示しています。音楽に対しての興味、関心をもち、早く学校生活に慣れて、楽しい気分で学習を進められること

　　　　　　　　　　　　　 　2017.10.18

ができるようにすると共に出会った友達と仲良くなれることを重点においていることが授業内容から理解できます。

　又小学校でも実にやわらかく、すべての児童に意欲的に取り組んでもらえるような内容を計画作成していると感じられます。

　器楽（鍵盤ハーモニカ）においては１年生の２学期に「どれみでうたったり、ふいたりしよう」の授業が行われます。※概ね取扱いの時数は１０時間

　１学期に学習してきた拍の流れやリズムに対する感覚を土台にして鍵盤ハーモニカの基本的な学習をすすめていくわけです。

　現在、２９年度の５歳児は１年生の２学期の教育を先取りしていることになります。学校教育においては「学びに向かう力」として興味、関心、

意欲をもち粘り強く、仲間と取り組む姿勢が望まれるとも言われています。

幼児期の教育内容を考えるにあたり、小学校との連携、接続を一つの視点と考えると幼児期の先取り教育による。　「しってる、やってる、やったことがある、もうできる」は就学後の学習態度の低下に少なからず影響を与えているでしょう。

　３、４歳児と同様に５歳児もわらべうたを音楽教育の中心と据えています。現在進行形の器楽の取り組みも適切な実践が必須となります

発達に応じたプロセスを踏み、生活の中で音楽が無理なく、心地よく感じられることが音楽を好きになる条件と考えます。

次号は、早期教育や就学前教育にふれていきます。

色づいていく木々、秋の収穫、お日様のもと

秋を満喫したいと願いが強くなる昨今、しばらくは秋雨前線が唯一、秋を感じさる事象のようです。　「明日天気になーれ！」

　　 　（　園　長　廣部　信隆　4 ）